

主張を理由と条件で支える

読み方ガイド 1 | 中3の読解・記述を確かめる

論説文では、「何を主張するか」だけでなく、「なぜそう言えるか」「どの条件で成り立つか」を追います。反対意見を認める文があっても、主張を取り消したとは限りません。

読む順序

- ① 問題提起から、筆者が答えようとする問いをつかむ。
- ② 主張を支える理由と、理由を具体化する例を区別する。
- ③ 反対意見に何を認め、どこで答え直したかを結ぶ。
- ④ 最後の主張に、途中の限定や条件を戻して読む。

短い例

学校の発表会では、準備の時間を同じにすれば公平だという考えがある。しかし、必要な道具の扱いに慣れているかは班によって違う。同じ時間でも出発点は同じでない。だからといって時間を無制限に延ばすのでもない。共通の時間を設けた上で、必要な練習を相談できる機会を用意したい。

論理を分ける

論点：公平な準備をどう支えるか。

根拠：道具への慣れなど、出発点に違いがある。

退ける極端な案：全ての班の時間を無制限にする。

提案：共通の時間と、必要な練習の相談機会を両立する。

注意

「同じ時間だけでは十分でない」は、「同じ時間を設けることは無意味だ」と同じではありません。「だけ」「必ず」「場合がある」など、主張の範囲を決める言葉に注目します。

例が示すことと示さないこと

読み方ガイド 2 | 中3の読解・記述を確かめる

具体例は考え方を分かりやすくします。ただし、一つの例があるだけで、全ての場面で同じ結果になるとは言えません。例の条件と、主張の範囲を照らし合わせましょう。

比べる観点

根拠は主張と関係しているか。

例で変わった条件は何か。

原因だと述べたこと以外の可能性はないか。

反対の立場にも、筋の通った理由があるか。

例から言える範囲を超えて「全て」「必ず」としていないか。

解答例で確かめる

例題：前ページの筆者に対し、「時間を延ばすだけでよい」と言う人に、本文に基づいて答えます。

解答例：筆者は出発点の違いに応じた支援を求めており、単に時間を延ばすのではなく、必要な練習を相談できる機会を共通の時間に加えるべきだと考えている。

記述の組み立て

「相手の意見のどこを認めるか」→「それだけでは足りない理由」→「筆者の提案や条件」の順で整理します。理由を尋ねられたら「～から」、内容なら「～こと」など、問いに合う文末にします。

自分の評価を書く場合

好みだけで賛否を決めず、本文のどの根拠や展開をどう評価したかを示します。本文の理解を問う設問では、自分の意見を筆者の意見に混ぜないようにします。

選択と記述の見直し

読み方ガイド 3 | 中3の読解・記述を確かめる

この単元はAからDの4セット、各8問です。前半は内容と論理を確かめ、後半は複数の段落を結んで説明します。本文と問題を横に並べて使えます。

選択肢は全体を照合する

前半が合っていても、結論が強すぎれば不適切です。

対象のすり替え：一部の人の例を全員へ広げていないか。

原因のすり替え：同時に起きただけのことを原因としていないか。

条件の消去：「必要に応じて」を「いつでも」に変えていないか。

抜き出しと説明を分ける

抜き出しは指定された段落・範囲・文字数に合わせ、本文どおりに書きます。説明は必要な内容を整理して自分の言葉で結びます。本文を長くつなぐだけでは、何が理由か伝わらないことがあります。

記述を点検する

- ☐ 主語と対象が分かる。
- ☐ 問いが求める二点・三点を全て含めた。
- ☐ 根拠と結論のつながりがある。
- ☐ 本文にない事実を足していない。
- ☐ 指定字数・語句・文末を守った。

丸つけの使い方

解答例と一字一句同じである必要はありません。必要な内容を採点基準で確認し、不足した根拠を本文へ戻って探します。A～Cは練習、Dは100点満点の実力確認テストです。Dは時間を計って解き、根拠の確認まで行いましょう。